徳島県立博物館

博物館ニュース

No. 99

アダンソンオキナエビス　*Entemnotrochus adansonianus*　バミューダ諸島産

オキナエビス類は、古生代から中生代にかけて繁栄した巻貝のグループです。現生種は20数種で、水深200～3,000mの深海（漸深海帯）に生息し、海綿などを食べています。稀少で貝殻が美しいので、コレクターや愛好家から人気があるグループのひとつです。

オキナエビス類は共通して殻口に切れ込みがあり、これを利用して呼吸や排泄などを行っています。アワビの貝殻にも同じ機能をもつ穴があり、巻貝の原始的な形質のひとつとされています。

アダンソンオキナエビスは、バミューダ諸島から西インド諸島、ブラジルにかけて分布する稀産種のオキナエビス類です。標本を売っている店から貝殻標本を入手することができますが、たいへん高価です。

7月18日から開催する特別陳列「シェルズ」では、これらの貴重な貝も展示します。無料ですのでこの機会に、ぜひご覧ください。　（地学担当：中尾賢一）

未知の大地 ミャンマーの花々

茨木　　靖

ミャンマーという国を知っているでしょうか？ この国は南北に細長く、平野から高い山まであります。さらに、雨の量も場所によって大きく異なるため、いろいろな種類の動植物が分布しています。ところが、この国は、長い間鎖国のため外国人が動植物を調べることができず、“未知の大地”とも言える状況でした。しかし、粘り強い交渉の末、高知県立牧野植物園は、ミャンマー林業省（現：環境保全林業省）と共同プロジェクトを発足させることに成功。当館も、この調査・研究の一部に協力しています。

ここでは、これまでの研究成果をもとに、ナマタン山（3,053m）の麓から山頂までの花々の移り変わりを紹介します。なお、本稿の執筆並びに写真については、高知県立牧野植物園にご協力・ご提供いただきました。

ナマタン山は、ミャンマーの中西部に位置し、自然豊かな国立公園となっています（図 1）。その麓の標高 450～800 m 周辺では、フタバガキの仲間（図 2）などが多く見られます。この付近は、一年の中で、雨の降らない“乾季”とたくさん雨の降る“雨季”がはっきり交代する場所です。森の木々は、雨季には大きな葉をつけていますが、乾季にはいっせいに葉を落とします。このため、この森は“雨緑林”と呼ばれています。

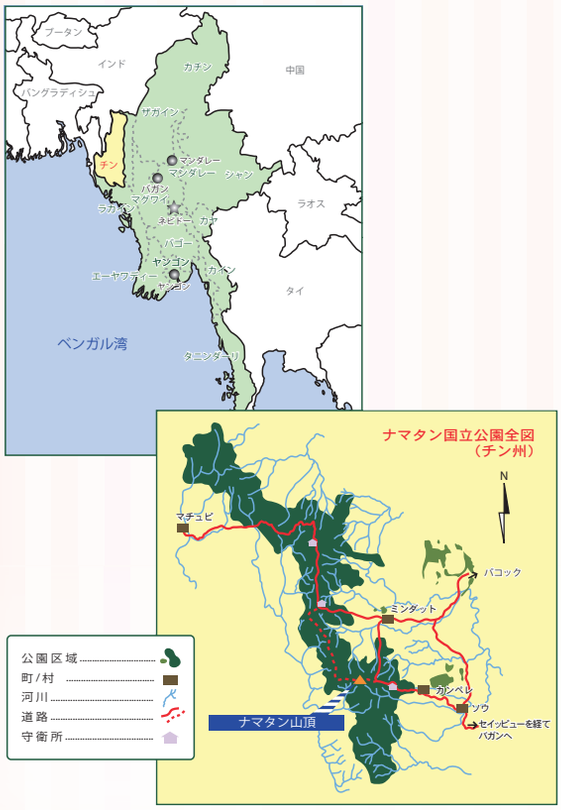

図 1　ミャンマーおよびナマタン山の地図。ナマタン山はチン州にある。（原図提供：高知県立牧野植物園）

さらに山を登って雨緑林の森を抜け、標高 1,200 m ほどの尾根筋にやってくると、ヒマラヤザクラやカリンの仲間、アオモジ、ヤナギイチゴの仲間などが見られます。また、私たちに馴染みの深い、イノコヅチなども生えています。標高がやや低い場所には、ハマザクロの仲間や

図 2　フタバガキの仲間　*Dipterocarpus tuberculatus*
（写真提供：高知県立牧野植物園）

図 3　ソシンカの仲間　*Bauhinia variegata*
（写真提供：高知県立牧野植物園）

マメ科のソシンカの仲間（図３）なども観察されます。

再び山を登って、標高 1,800～2,700ｍあたりまで来ると、南斜面や乾燥した尾根は、カシヤマツの林になっています。この松林の中は、日本や中国と共通の植物が多く、ネジキやキバナノコマノツメ（図４）のように、徳島県に生育しているものも見られます。

また、標高 2,700ｍ以上の南斜面では、カシヤマツの生育がなくなり、代わりにカシの仲間やヒマラヤシャクナゲが多く生える常緑の森となります。ここでは、キク科の新種ヒマライエラ・ナマタンゲンシスなども見つかっています（図５）。

ナマタン山の頂上付近、標高 2,900～3,000ｍの尾根などでは、大きな木が生えず、低木がまばらに生える草原となっています。この草地には、乾季の終わりからお花畑が広がり、季節ごとに、花々が一面に咲き乱れます。薄紫色のボンボリサクラソウ（図６）、青紫と白花のアネモネの仲間、ショウガ科のロスコエア･アウストラリス（図７）、透き通った青色のリンドウの仲間などです。

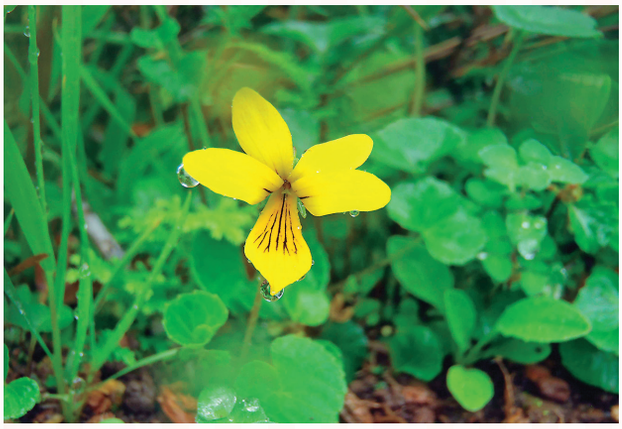

図４　キバナノコマノツメ　*Viola biflora*
（写真提供：高知県立牧野植物園）

図５　ヒマライエラ・ナマタンゲンシス　*Himalaiella natmataungensis*（写真提供：高知県立牧野植物園）

以上、ナマタン山を例に、ミャンマーの植物の一部をご紹介しました。この国は、多様な環境があることから生物の種類も多く、この国立公園内だけでも植物は、約 2,500 種が知られ、推定では 3,000 種があるだろうとも言われています。今後、研究が発展すれば、まだまだ私たちの知らない植物が見つかってくることでしょう。

（植物担当）

図６　ボンボリサクラソウ　*Primula denticulata*
（写真提供：高知県立牧野植物園）

図７　ショウガ科のロスコエア・アウストラリス
Roscoea australis
（写真提供：高知県立牧野植物園）

特別陳列
シェルズ

―貝類の現在と過去をさぐる―

平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

徳島県立博物館 1階 企画展示室

貝類（軟体動物）は、節足動物に次いで種数の多いグループです。その一部は食用として、あるいは貝殻が工芸品や楽器などに利用されるなど、人の生活とも密接なつながりがあります。

また貝化石は、最も多く産出する大型化石であり、現在まで数多くの研究が行われています。

この展示では、多様性に満ちた貝類と、その化石が示す現在と過去を、豊富な資料をもとに紹介します。

サザエ（長崎県）　ショクコウラ（沖縄県）　ミドリパプア（パプアニューギニア、陸貝）　カブトカセン（鹿児島県、化石）

展示解説

7月20日（月・祝）
14：00～14：30

観覧無料

展示内容

貝類とは／貝類の分類／貝殻の形と色・模様／貝類がすむいろいろな環境／貝の利用／いろいろな時代の貝類／徳島とその周辺の貝化石／徳島とその周辺の貝／ギャラリー（きれいな貝、大きな貝、変わった形をした貝など）

開館時間：9:30～17:00　休館日：7月21・27日／8月3・10・17・24日　主催：徳島県立博物館

館蔵品紹介

絵はがき「徳島名物盆踊り」

今回紹介する資料は、「徳島名物盆踊り」というタイトルの絵はがきです（図 1）。今で言う阿波踊りの一場面を写した写真絵はがきです。こうした絵はがきは、明治末期から登場し、大正期、昭和期とさかんに発行・発売されていたようです。実際に同名の絵はがきが多種類発行されていて、この資料も、その中の 1 枚と言えます。

この絵はがきのタイトルを見て、少し違和感があるかもしれません。「名物盆踊り」とあります。この当時から、すでに徳島市の「盆踊り」は「名物」とされ、絵はがきにもなっていました。しかし、それは江戸時代以来の名称である「盆踊り」としてでした。「阿波踊り」という名称が一般化し、統一されていくのは、新聞紙上等では昭和 30 年頃からで、踊りの観光資源化の過程で変化していったようです。

写真の中心には踊り手の男性姿の者が 4 名、女性姿の者が 4 名写っています。その内女性 2 名は三味線、1 名は鼓を、そしてそのほかの男性は団扇を手にしています。昼間の「ぞめき踊り」の一場面でしょう。少人数で町を練り歩いていたようです。夜間ではなく、昼間のこのような踊りのようすを写した写真を絵はがきにしている例は、ほかにも多数あります。

ところで、この絵はがきはいつ頃のものだったのでしょうか。表面（図 2）に情報が残されています。左上には 1 銭 5 厘の切手が貼られ、その上に消印が押されています。はがきの表面のレイアウトや切手価格等から見て、消印は、大正 6 年 9 月 8 日の徳島のものと考えられます。そして、中国の上海に住む知人に宛てられた私信のようですが、その中で「盆踊り」のことにも触れ、「例年旧暦盆」に踊られている旨が書かれています（図 1）。当時の地方紙である『徳島毎日新聞』によると、大正 6 年の徳島市の「盆踊り」は新暦 8 月 31 日から 9 月 2 日までの開催期間であったとされ、旧暦では 7 月 14 日から 16 日にあたります。ちなみに、消印の 9 月 8 日は旧暦 7 月 22 日にあたります。ということは、「盆踊り」が終わって間もなくの時期に書いて出された絵はがきだとわかります。

旧暦盆や祝賀会等の機会に踊られてきた徳島市の「盆踊り」ですが、三原宏文氏の記録によると、昭和 20 年代には現在と同様に新暦の月遅れ盆（新暦 8 月中旬）に行われたり、従来通り旧暦盆に行われたり、その両方で 2 度行われたりと日取りが一定ではありませんでした。現在のように月遅れ盆に決まって行われるようになったのは、昭和 40 年代に入ってからのようです。

（民俗担当：磯本宏紀）

参考文献
三原宏文　1976『阿波おどり実記』三原武雄（宏文）

図 1　絵はがき「徳島名物盆踊り」の裏面

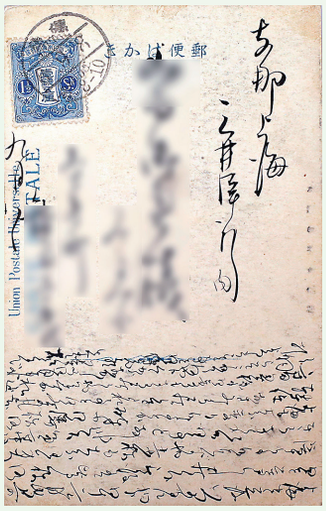

図 2　絵はがき「徳島名物盆踊り」の表面

情報ボックス

阿南市北の脇海岸に埋められていた古銭

この古銭は、平成24年に阿南市の秋本沙枝子さんより寄贈されたものです。昭和30年代に秋本さんのご主人の係わった北の脇（図1）の浜堤上での土取工事中に発見されたものの一部で、最初に工事の依頼主である尾崎巧さんによって見つけられました。

尾崎さんによると、約10,000枚が出土したのではないかということで、高さ40cmほどの壺に入れられて埋められており、石灰の固まりで蓋がされていて、壺は焼きが固く釉薬がかかっていたそうです。この壺は回収されず、古銭もその後、散逸したものが多く、現在は約4,000枚足らずが残っているだけです。

秋本さんから寄贈いただいた古銭は1,570枚で、その内訳は、明の永楽通宝が最も多く196枚あります。これに、元豊通宝、皇宋通宝、元祐通宝、熙寧元宝、天聖元宝などの北宋銭が続き、唐の開元通宝も86枚と多くあります。南宋銭は少なく、ほとんど1、2枚しか確認されていません。永楽通宝とともに代表的な明銭である洪武通宝も2枚だけで、極端に少なく、北方民族王朝『金』の正隆元宝が1枚確認されています。最も古いのは開元通宝（621年初鋳）、最も新しいのは永楽通宝（1408年初鋳）です。中国歴代王朝の古銭だけで、朝鮮半島、安南（ベトナム）、琉球の古銭や日本の皇朝十二銭は含まれていませんでした。

図2　正隆元宝

日本では、中世になると日宋貿易、日明貿易などを通じて大量の銭が中国から輸入され、これらが流通するようになります。その一部が壺や甕などに入れられて地中に埋められることがありました。これらの古銭は埋納銭と呼ばれています。

徳島県内の大量埋納銭は、海陽町の大里古銭（70,088枚）、阿南市の長生古銭（26,338枚）、徳島市の一宮古銭（17,178枚）が有名で、埋納時期によって大きく2つに別けられます。大里古銭、一宮古銭は、元代までの古銭しか含まない古い時期の埋納で、長生古銭は明銭や朝鮮通宝、琉球の古銭など15世紀代に初鋳された古銭も含み、新しい時期の埋納です。北の脇の古銭の埋納時期は後者に近いのではないかと思われます。また、埋納銭は川沿いや海岸近くで発見される例が多いのですが、北の脇古銭は、浜堤上での埋納ということで、大里古銭の立地に最も近いと思われます。

最近、尾崎さんからも古銭が寄贈されたので、この整理も進め、北の脇海岸の浜堤から発見された古銭の全体像をより明らかにしたいと考えています。

（館長：高島芳弘）

図1　古銭の発見された北の脇海岸の遠景（東上空から）

高野山に、徳島から運ばれた石碑があるそうですが、どんなものですか？

ご質問の石碑は、和歌山県の高野山奥の院にある名号板碑です（図１）。地上高が 180cm 余りもある、大きなものです。

板碑とは、中世の供養塔の一種です。高野山に残るこの板碑は、板状に整形された緑色片岩が用いられ、山形の頭部とその下の２条線があり、さらに塔身部には長方形の枠線があります。材質・形状ともに「阿波型板碑」の典型的なものです。枠線内には六字名号（南無阿弥陀仏）が大きく刻まれ、趣旨なども見られます。名号は時衆系の書体で、徳島県内にも例があります。南北朝時代の康永３年（1344）、阿波の国府（徳島市国府町）の住人覚仏が、自分自身の往生と亡き妻子の冥福を祈るために建てたことが分かります。

ところで、この板碑は阿波から高野山に運ばれたと思われますが、その背景は何でしょうか。ここで注目したいのが、時衆との関係がうかがえる名号です。中世の高野山には、堂舎造営のための勧進活動、高野山への信仰を広める役割を担い、念仏を唱えた高野聖（図２）がいました。彼らは、

図１　高野山奥の院の名号板碑
左：実物、右：拓本（当館蔵）

図２ 三十二番職人歌合絵巻（模本）のうち高野聖（当館蔵）

南北朝・室町時代に時衆化したことで知られています。阿弥陀信仰を介して覚仏と高野山を結びつけ、板碑を建てるきっかけをつくったのは高野聖だったのではないでしょうか。

弘法大師空海ゆかりの真言密教の聖地である高野山と阿弥陀信仰がかかわるのは不思議に思われるかもしれませんね。大師信仰が盛んになった10 世紀末～11 世紀、高野山は浄土とみなされ、阿弥陀如来や弥勒菩薩への信仰と結びつきました。高野山は阿弥陀信仰の聖地でもあったのです。

今年は、空海の高野山開創から数えて 1,200 年にあたります。高野山を訪ねる人も多いでしょうが、奥の院の名号板碑もぜひご覧いただきたいものです。　（歴史担当：長谷川賢二）

７月から９月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行　事　名	実 施 日	実施時間	申込	対 象（定員）	備　考
歴 史 散 歩	徳島大空襲の史跡を歩こう	7月　5日(日)	10:00 ～ 12:00	要	小学生から一般（20）	現地集合
	徳島・美馬の遺跡見学	9月　6日(日)	9:00 ～ 17:30	要	小学生から一般（40）	貸切バス
野外生きものかんさつ	川魚かんさつ★	7月18日(土)	10:00 ～ 12:00	要	小学生から一般（40）	現地集合
	中級クラス植物観察会７月	7月25日(土)	9:30 ～ 17:00	不要	一般（10）	
	漂着物を探そう！★	7月26日(日)	9:00 ～ 17:00	要	小学生から一般（30）	貸切バス
	初めての植物かんさつ（秋編）★	9月20日(日)	14:00 ～ 16:00	不要	一般（15）	
	河口の生きもの★	9月27日(日)	9:30 ～ 11:30	要	小学生から一般（60）	現地集合
ミクロの世界	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ★	7月　5日(日)	13:30 ～ 15:30	要	小学生から一般（40）	
みどりを楽しもう･味わおう	夏休みの自由研究に！葉っぱのスタンプとカルタ作り★	7月25日(土)	10:00 ～ 12:00	要	小学生から一般（20）	
生きものしらべ隊	昆虫標本を作ろう（初級）①★	7月18日(土)	10:00 ～ 15:00	要	小学生から一般（20）	①～③のセット
	昆虫標本を作ろう（初級）②★	7月19日(日)	10:00 ～ 15:00	要	小学生から一般（20）	〃
	昆虫標本を作ろう（初級）③★	8月９日(日)	13:00 ～ 16:00	要	小学生から一般（20）	〃
	植物標本を作ろう①観察･採集★	8月　1日(土)	13:00 ～ 16:00	要	小学生から一般（20）	①②のセット
	植物標本を作ろう②乾燥･名前調べ★	8月　2日(日)	13:00 ～ 16:00	要	小学生から一般（20）	〃
ワクワクむかし体験	掛け軸や巻物にしたしもう	9月13日(日)	13:30 ～ 15:00	要	小学生から一般（30）	
ミュージアムトーク	江戸幕府と徳島藩の政治改革	9月20日(日)	13:30 ～ 15:00	不要	小学生から一般（50）	
海部自然･文化セミナー	出羽島とカツオ漁	7月26日(日)	13:30 ～ 15:00	不要	小学生から一般（50）	海陽町立博物館
※海陽町立博物館共催	アクセサリーに魅せられて	8月23日(日)	13:30 ～ 15:00	不要	小学生から一般（50）	海陽町立博物館
特別陳列関連行事	特別陳列「シェルズ」展示解説	7月20日(月･祝)	14:00 ～ 14:30	不要	小学生から一般	入場無料
部門展示関連行事	部門展示「戦争の時代と徳島」展示解説	8月15日(土)	14:00 ～ 14:30	不要	小学生から一般	
	部門展示「脱穀用具展」展示解説	9月23日(水･祝)	14:00 ～ 14:30	不要	小学生から一般	入場無料
博物館スペシャル	教員のための博物館の日	7月29日(水)	10:00 ～ 16:00	要	お申し込み･お問い合わせは、徳島県立総合教育センターへ（088-672-6419）	
	夜の博物館ドキドキ体験ツアー	8月　1日(土)	19:00 ～ 20:00 20:00 ～ 21:00	要	小学生から一般（各 30）	
	標本の名前を調べる会★	8月22日(土)	10:00 ～ 16:00	不要	小学生から一般	☆参照
	文化の森サマーフェスティバル	8月23日(日)	9:30 ～ 16:00	不要	幼児から一般	

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。　◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。　◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。
☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物（昆虫・貝など）・岩石・化石などの標本の名前を調べる会です。希望者は採集標本（1 人 30 点以内）を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

◎１枚の往復はがきで､1 行事のみ申し込むことができます。
◎行事日の **1 カ月前から 10 日前**までに、必着で右記までお申し込みください。
◎返信用はがきの住所･氏名も忘れずに記入してください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。

往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
52 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	52 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ（電話 088 - 668-3636）

お知らせ　8月31日(月)～9月18日(金)まで、常設展示室はリニューアルのために閉室します。

博物館友の会に入会しませんか！

博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。
2015 年度も楽しい行事が予定されています。
みなさんも参加してみませんか？

■年会費　• 個人会員 2,000 円　• 家族会員 3,000 円

■会員の特典
- 年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- 友の会の楽しい行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの商品を割引価格で買うことができます。
- 催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

◆2015 年度行事（友の会会員だけの行事です。予定を含む。）

5月23日(土)	深淵の自然観察（三好市東祖谷）
6月28日(日)	古代の繊維を取ろう（博物館実習室）
7月(日は未定)	虫送りを見に行こう（阿南市長生町）
9月26日(土)	うだつの街並み見学（美馬市脇町）
10月　3日(土)	ウミホタルの観察会（鳴門市大毛島）
10月31日(土)	奈良日帰り研修（奈良県内）
11月14日(土)	化石を探そう（兵庫県南あわじ市）
11月28日(土)	閑谷学校の見学（岡山県備前市）
3月12日(土)	梅見ハイキング（神山町阿野）

詳しくは、友の会事務局まで（電話 088-668-3636）

博物館ニュース No.99
■発行年月日　2015 年 6 月 25 日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070　徳島市八万町向寺山　TEL088-668-3636　FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp